



四半期別TV用OLED 市場レポート

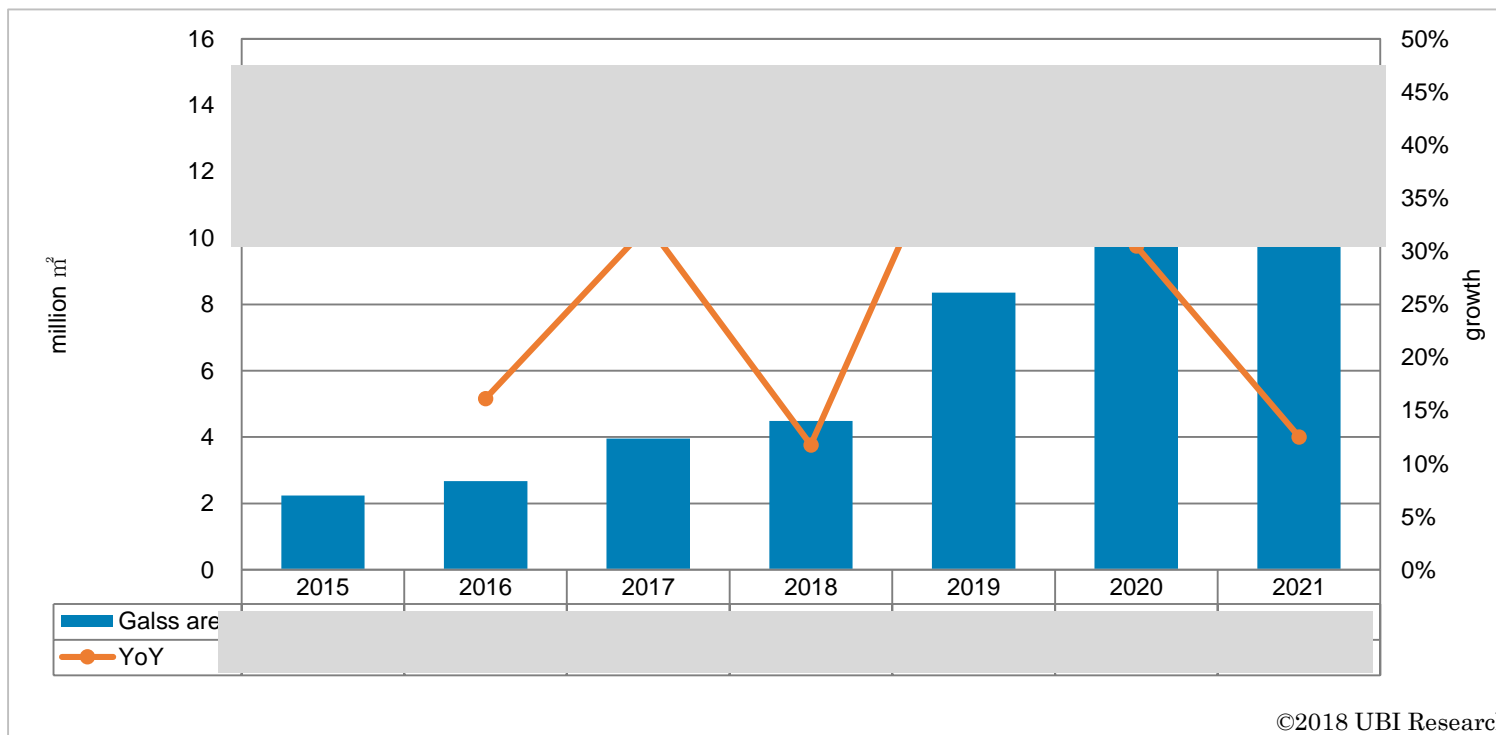
2018.8

エグゼクティブサマリー -----	4
1. パネルメーカーの動向 -----	5
2. 量産ラインの生産能力分析 -----	7
2.1 四半期別基板面積	
2.2 年度別基板面積	
3. 市場実績 -----	10
3.1 四半期別売上高	
3.2 四半期別出荷量	
4. 需要および供給分析 -----	14
4.1 四半期別	
4.2 年度別	
5. 市場展望 -----	19
5.1 売上高	
5.2 出荷量	
6. TV用OLEDパネルの製造コスト分析 -----	22
6.1 55型OLEDパネル	
6.2 65型OLEDパネル	
6.3 77型OLEDパネル	
7. TV用OLEDパネル価格の動向 -----	26
7.1 四半期別OLEDパネル価格	
7.2 年度別OLEDパネル価格	

2. 量産ラインの生産能力分析

2.2 年度別基板面積

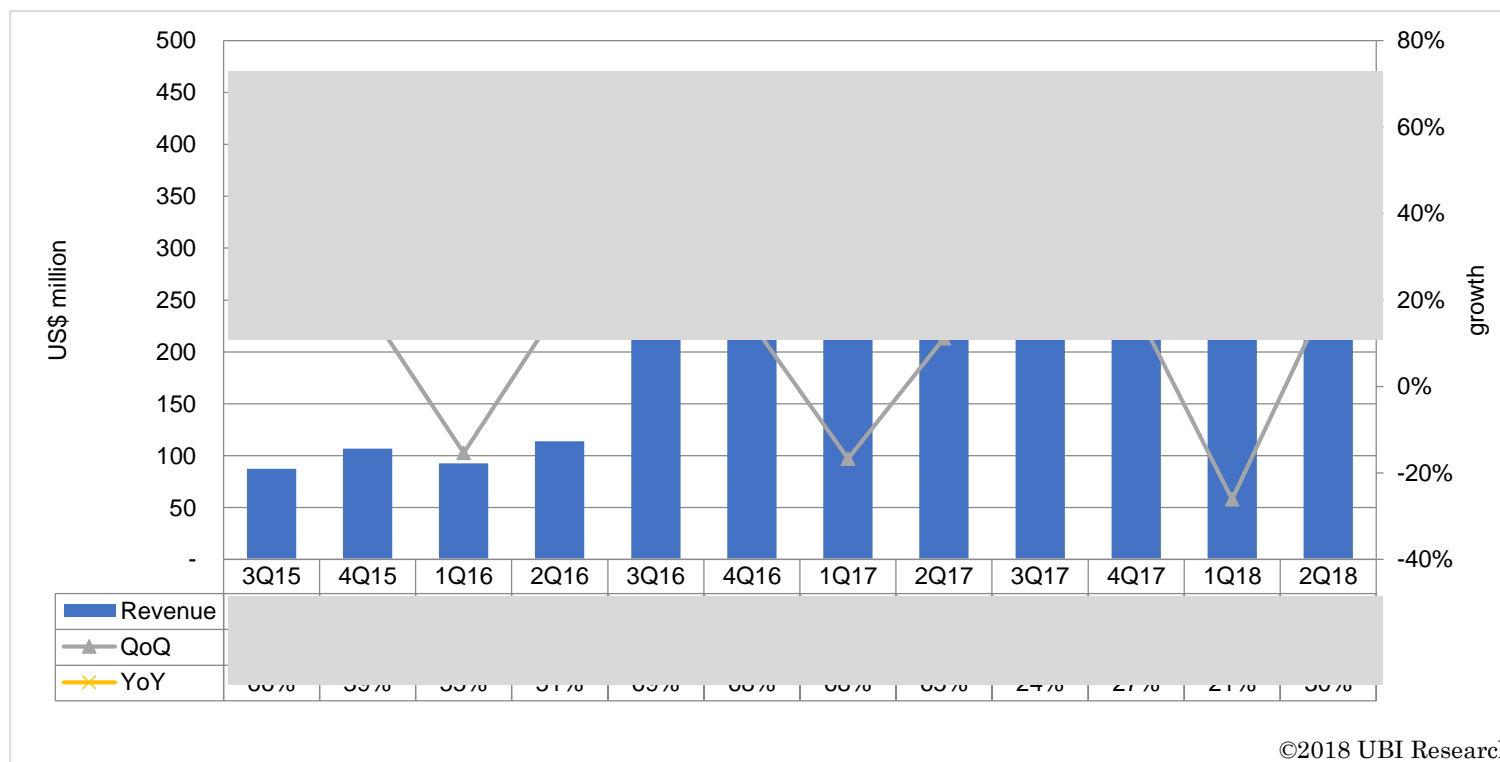
- PajuにあるLG Displayの第8世代WRGB OLED工場は、2018年上半期に月産30,000個規模に増設され、現在、稼働中である。これにより、今年の基板面積は450万m²になり、YoYは2017年に比べ、
- LG Displayは2019のWRGB OLEDラ世代ラインを新設すみられる。



3. 市場実績

3.1 四半期別売上高

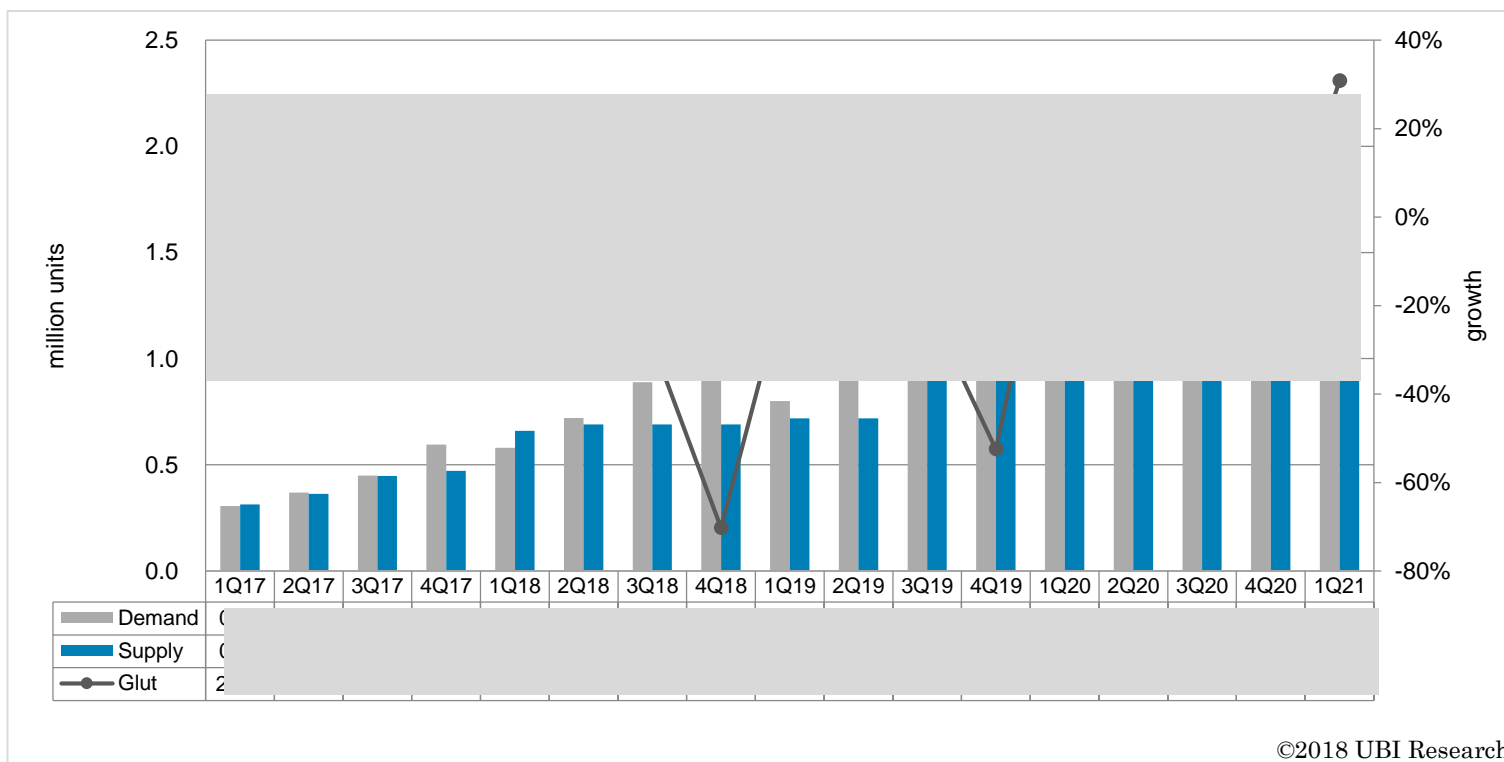
- 第2四半期にWRGB OLED TVの売上高が前四半期から約1.5倍に増加し、前四半期に比べて約1.5倍の売上高を記録した。約1.5倍の売上高を記録した。
- LG Electronicsを始めとするSonyとPanasonicなど、様々なTVメーカーがOLED TV事業を積極的に展開しているためである。



4. 需要および供給分析

4.1 四半期別

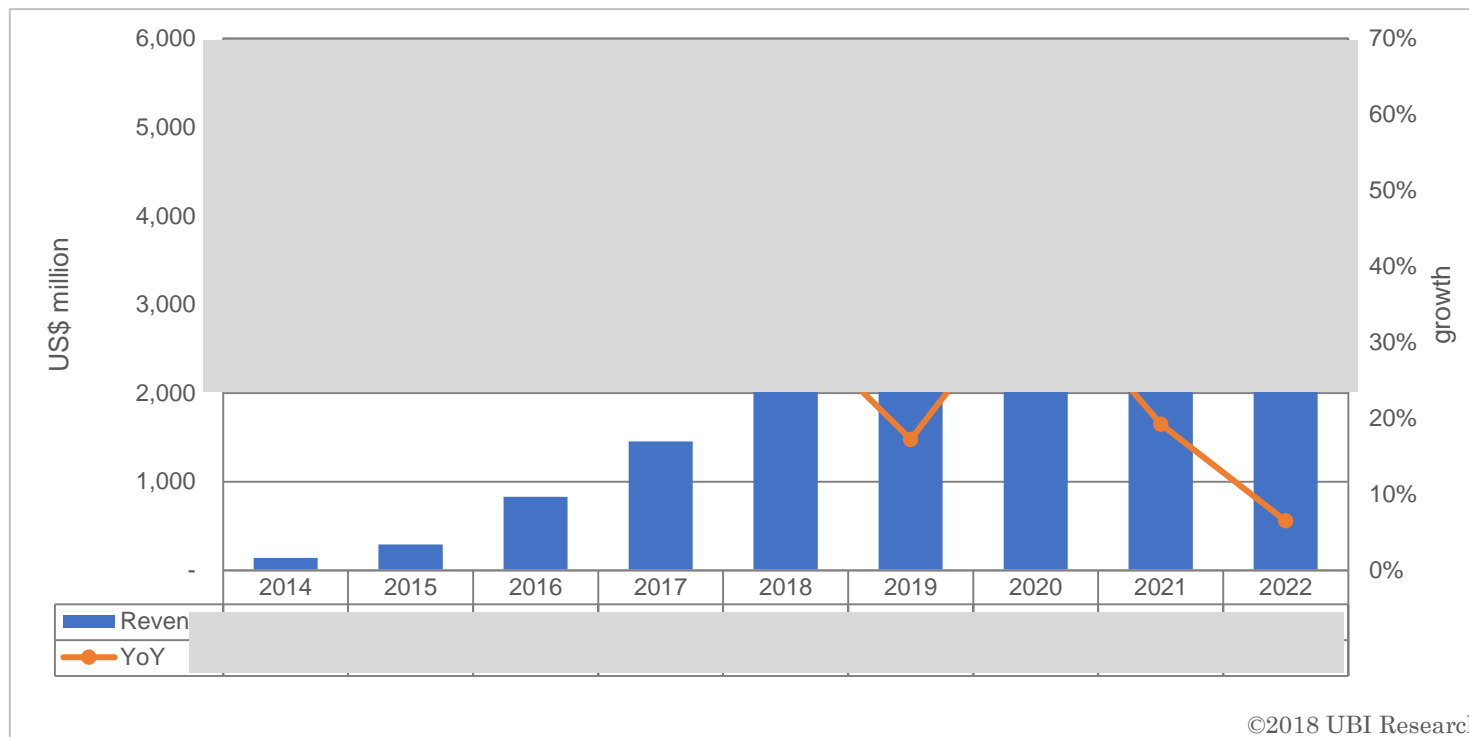
- LG Displayが生産しているWRGB OLEDパネルのサイズは、55型・65型・77型の3種である。
- E4-1とE4-2ラインで生産される55型と65型パネルは、市場の状況によって生産量が異なるが、現在は55型が中心と見られる。
- 2018年第4四半期は、需要が急増した。歩留まりが向上し、供給量が増加した。
- 第3四半期と第4四半期には、オフシーズンの需要減少により、供給不足が激化するとみられる。



5. 市場展望

5.1 売上高

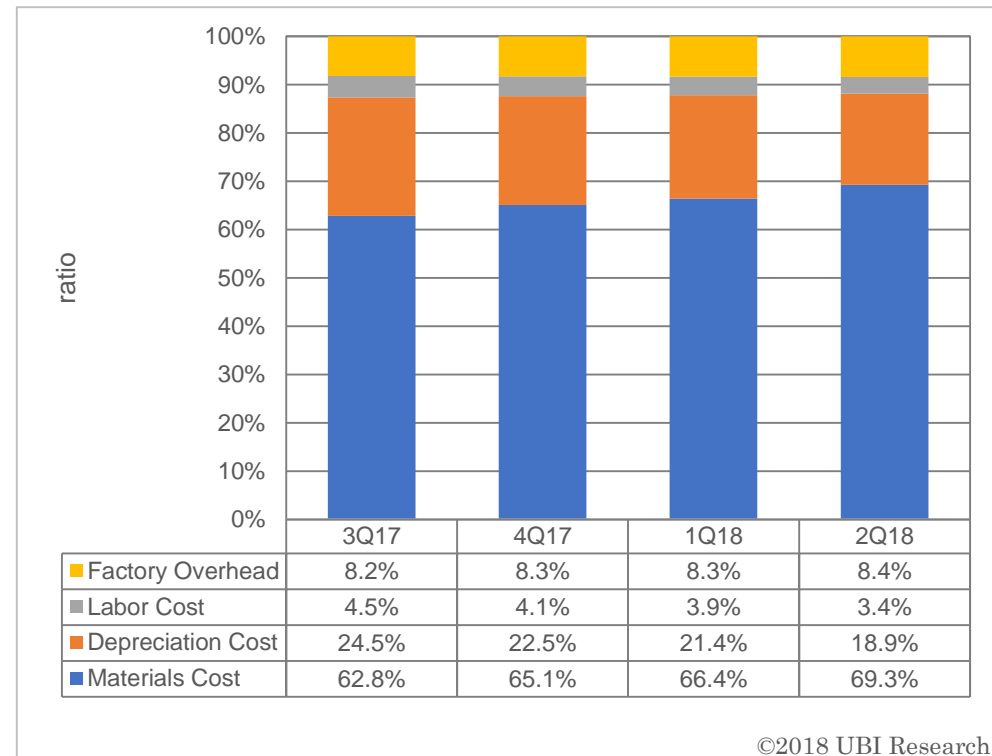
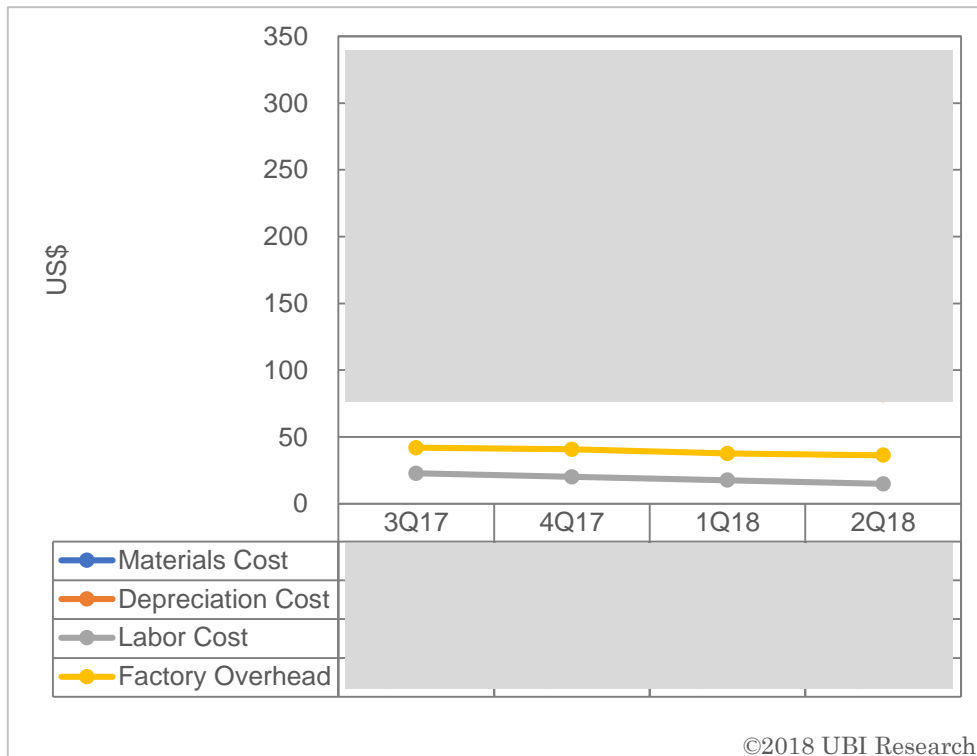
- 2018年の1,000万米ドルに比べ、33%
- 2019年に1,500万米ドルに達する予定の
- 2020年に1,800万米ドルに達する予定の
- プレミアムTV市場が飽和する2021年以降は、成長が鈍化することが懸念される。
- 2021年以降は中価格帯OLED TV市場の開拓状況により、市場の成長率に変化があると考えられる。



6. TV用OLEDパネルの製造コスト分析

6.1 55型OLEDパネル

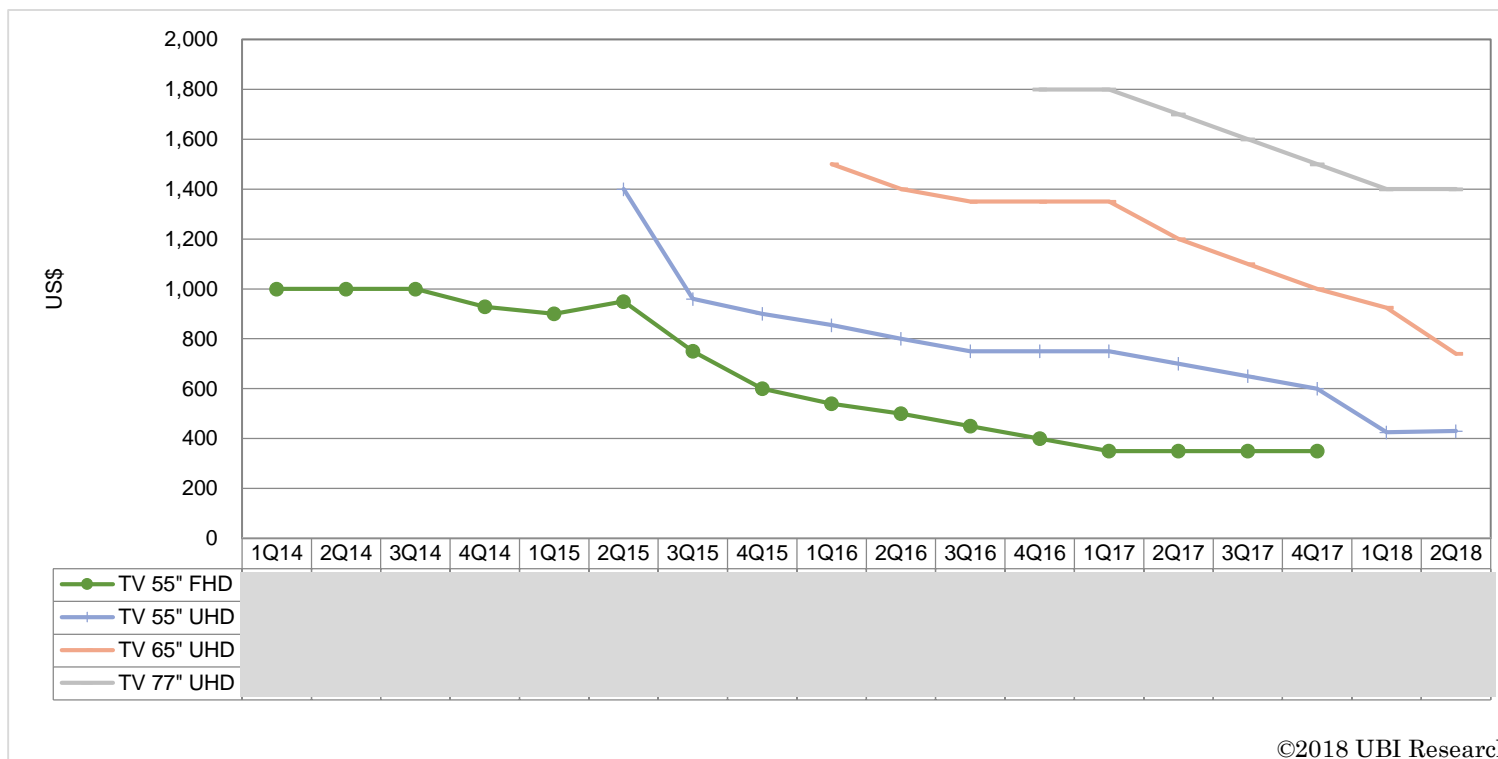
- 2017年第4四半期までは稼働率が80%にとどまっていたが、2018年から90%に上昇し、さらに平均歩留まりが85%に向上したため、生産量が増加した。
- その結果、第2四半期に55型UHI 米ドルに比べ、20米ドル減少した。
- 製造コスト低下の最も大きな要因は、生産量増加による減価償却費の減少にある。



7. TV用OLEDパネル価格の動向

7.1 四半期別OLEDパネル価格

- 第2四半期にLG DisplayがOLEDパネルの生産能力を大幅に増強し、第1四半期以来の価格高騰が確認された。第1四半期以来、他のメーカーに販売するメーカーが増え、価格が低下した。
- 65型パネルの価格は740米ドルを維持している。
- 77型パネルの価格は1,400米ドルを維持している。



©2018 UBI Research